

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

- from Nepal: 水害レポート/秋まつりデザイン..... 1~2
- from Laos: 水害レポート/JVCラオス駐在員現地報告会 3
- from Cambodia: CWCCからの報告/現地の助っ人ディナさん..... 4
- 今年も秋のイベントに楽しく参加! 5
- 共に生きる/コア会が始まりました..... 6
- 事務局から(下田さん・小俣さん紹介)..... 7
- 地球の木と私/活動日誌..... 7
- インフォメーション(地球の木カレンダー/イベント情報) 8
- 編集後記 8

大水害 日本で ネパールで そしてラオスでも

今年10月、日本では台風19号がもたらした記録的な大雨が、東日本各地に甚大な被害を与えました。多くの河川で堤防が決壊し、数えきれないほどの土砂災害もありました。こういった災害は他人ごとではなく、誰もが次は私たちの身近であるかも知れないと思わせる昨今です。

地球温暖化による気候変動が、世界各地に自然災害の発生を増大させていると考えられていますが、アジアの各地でも災害が続きました。7月、ネパール南部ではモンスーンの豪雨により洪水や土砂崩れが相次ぎ、地球の木の支援する村も大きな被害を受けました。またラオス南部では8月末の台風上陸と集中豪雨の影響で大洪水が発生し、JVCの活動村が大きな浸水被害に遭いました。地球の木では、できるだけ支援をしていきたいと思っています。

from Nepal __ part 1

みち、みず、でんき なにも ない です

7月11日に降り始めた豪雨が、支援地のロシ地域を含むネパール広域、インド、バングラデシュ、ミャンマーで猛威を振るいました。ネパールだけでも38万人以上(4国で2,500万人)が被災。豪雨に伴う洪水と地滑りの被害が多発しました。現地スタッフのムクマヤさんに安否確認すると、「とてもたいへんでした。いま みち、みず、でんき なにも ない です」という返事がきました。SAGUNのカトマンズ事務所からは「全域の飲料水システムが崩壊し、安全な水を手に入れることができないため、村人たちは川や近くの水路の水を使っています。洪水で畑の表土が流され生活道路も使えなくなりました。降り続く雨によって、主食であるトウモロコシなどの作物が壊滅的な被害を受けることが懸念されます」というメールが来ました。ムクマヤさんの住むマンガルタール村だけでも、豪雨により50軒以上の家屋が損壊したそうです。

この報を受けて、「地球の木緊急支援行動指針」に照らし合わせて理事会で討議、まずは初動基金として10万円を送ることが決定されました。SAGUNは地域の行政に働きかけ、救援金確保のためのバスケットファンド(罹災救済基金)を始動することを提案。地球の木が寄付した10万円が原資となりバスケ



支援村マンガルタール村では豪雨により50棟以上の家屋が損壊した

ットファンドがスタートしたのです。ロシ地域で支援活動をする他のNGO、そしてSAGUNからも10万ルピー(約10万円)ずつ拠出することになり、あっという間に30万ルピーが集まりました。

ロシ農村自治体は「被災地域で一番重要なのは水と道路」と考えています。道路がなくては支援物資も運べないので、道路の整備を最優先にしています。SAGUNは行政の要望に応じて、

飲料水用パイプの補修に取り組むことにしました。SAGUNが給水用のパイプを購入し、専門家部隊がパイプを敷設します。地球の木からの緊急支援金は、自治体内にある12区の内、4区の壊れた給水パイプの補修に充てられます。人々は2ヵ月ぶりに安全な水を手に入れることができるようになりました。

SAGUN事務局長のマハントさんからは、「地球の木さん、ありがとう。いつも私たちがカづけて下さる地球の木のことを誇りに思っています」とお礼のメールが届きました。しかし、8月に現地を訪問したネパールチームの勝田さんによると、まだまだ助けを必要としている人たちが大勢いるとのこと。家を流された小学生が9人。多くのトウモロコシ畑は表土ごと流されてしまったため次の収穫は見込めません。水牛やヤギを流された家庭、教科書や制服を失った生徒たち。ところが、地方政府は、家を流された家庭に対して1万ルピー（約1万円）の見舞金しか出せない。それも、たった一軒のみ。年度初めに国から下りた予算を全部使ってしまったのだそうです。このような厳しい状況の中でも人々は乏しい食料を分け合い、家を流された隣人を泊めてあげたり、隣村の道路の補修のために寄付金を集めたりと互助の精神を失うことなく頑張っています。

from Nepal part2

雨にも負けず…

水害は毎年のように弱い立場にある人々に襲いかかりますが、今年は前代未聞の規模だったといえます。被災から3ヵ月が経った10月半ば、地球の木担当のマハントさんに「配水管はちゃんと機能していますか？」とメールを送ると、「はい、うまく機能しています。今、マンガルトールにきています。アイキャンプの3日目です」という返事が返ってきました。住民のための眼科検診の最中だったのです。

「幸せ分かち合いムーブメント」の考え方が地域に、そして首都カトマンズにも広まり、昨年はカトマンズの眼科医が、普段病院に行けない村人のためにボランティアで健診に来てくれました。今年は近くの町の眼科医たちの協力が得られるようになり、ヘルスクャンプ（健康診断）も実施するそうです。水害で体調を崩した村の人々にとって天からのギフトとなるでしょう。



リタさんのお家でダサイン祭り

500人が大結集！

「10月21日には、村々から500人が集まって農民会議をします。あなたもマンガルトールに来ませんか？」という招待のメールが突然来ました。『どこでもドア』があるといいのですが、あいそれとは行けません。すると「うまくいくように祈っていてね」というメッセージ。人々にやる気を出させるのが得意な、さすがのマハントさんも500人の大集会を前にちょっと緊張しているのかもしれない。想像を超える500人の農民会議では何が話し合われ、そこから何が生まれるのでしょうか。とても楽しみです。

民主主義に欠かせないのは話し合い。「幸せ分かち合いムーブメント」が一番大切にしているsitting together and talk、膝を突き合わせて話すことです。さて、日本の私たちは、大切なことを決める時、十分に話し合いをしているのでしょうか。

(ネパールチーム 乳井京子)



総勢500名が集まった農民会議

秋まつりダサイン

ネパールは祭りが多いことで知られています。その中でも最大の祭りがダサイン。ヒンドゥー教の祭りで、善が悪に勝利したことを祝います。家族・親族、地域の人たちが集い、ご馳走をいただき、晴れ着を新調する時でもあります。その1日目に容器に土を入れ、大麦の種を播きます。10日目に伸びてきた麦を刈ってお祝いに使うしきたりがあり、これをジャムラと言います。

日本に留学中のリタさんからダサインのお祝いに招かれました。日本で暮らす中、手に入るもので故郷の伝統を守る様子がありました。祭り10日目にあたる10月8日は、年配者からティカとジャムラをもらう日。故郷のお母さん代わりに私がその役目を引き受けました。ティカとは赤い粉、米、ヨーグルトを混ぜたもので、祝福の言葉を言いながら額につけてあげます。健康と博士論文の成功を願いました。ジャムラは髪に刺します。ジャムラそっくりのものが売っていたと見せてくれたものはなんと猫草！確かによく似ています。

(ネパールチーム 丸谷士都子)

ラオスでも洪水被害

自給自足の村の暮らしに大打撃!

～洪水被害支援のお願い～

ラオス南部でも、台風上陸に伴う集中豪雨のため広範囲に洪水が発生。地球の木が支援しているサワンナケート県ピン郡の、JVCの活動村5村すべてが大きな浸水被害を受けました。



船で支援物資を運ぶJVCのスタッフ

* * *

地球の木は、恒例の年末募金で皆様にご協力をお願いするようになりました。自給自足に頼る村の暮らしは非常事態には脆弱です。皆様のご支援よろしく申し上げます。(ラオスチーム 中野真理子)

《JVCからの報告》

ピン郡で起きたセーバンヒエン川、セーラノン川の氾濫による洪水は、村の年寄りが「これまで経験したことがない」というほど大きな被害をもたらした。JVCは現地へ駆け付け、被害状況を聞き取り、購入した食料等の緊急支援物資を手渡した。各村の被害は、多くの家屋の倒壊、浸水、家財・家畜の流失ほか、コンクリートの橋の流出等も報告されている。特に深刻なのは、5村すべてで水田が泥水に浸かり、ほぼ今季収穫不可能となり、米蔵の米も浸水でカビが生え、来年度への種もみもないという事態。国の救済対策は全く期待できず、今食べる米を失い、次に米を得る手段すら失った村人たちは出稼ぎに行く、家財や家畜を売るなどして何とか食いつないでいる、厳しい状況である。JVCでは募金により、必要最低限の食糧・家財支援、井戸の修繕、農作物の種子支援、種もみの支援など中長期的な村人の生活再建のための復興支援を行っていく。

「JVCラオス現地駐在員報告会(9/19)」に出席して

現地に駐在している人の話を直接聞けるのはありがたいと、そしてとても面白いものだ。今回特にそう思った。話し手は駐在3年目の山室良平さん。集まったのは地球の木の各チームで活動する10数名である。

報告会は、山室さんの話の合間に参加者が質問や感想をそのつど発言する、という至極自由な形になったため、少しとりとめがなかったが、生き生きとした楽しい報告会になった。山室さんはどんな質問にも誠実に答えてくれた。

私たちはJVCを通して長年ラオスの村人たちを支援しており、会報でその支援状況を途切れることなく報告してきた。1975年建国のラオスは、一党独裁の社会主義国家で、社会や政治の仕組みを整えていくのはまだまだこれからのである。様々なNGO活動への規制がある中で、支援先の村や村人たちの実情に応じた、実質的な活動をどう展開して行くのか。現地駐在員の苦勞がしのばれた。

3年計画のプロジェクトは今折り返し地点。対象村10村の内6村で、村の地図がほぼ出来上がったという。地図作りは、まず村人と一緒に歩いて村境を確認し、衛星写真に記入する。更に道路や河川、共有林、土地利用なども加える。また村の基礎データ(人口、歴史、自然資源の状況など)を聞き取り調査によってまとめる。そうして初めて浮かび上がった村の客観的な現況を、村人、行政官と一緒に確認しあう。これらは本来国がやるべきことなのだろうと私は思う。しかしまだ手が届かな



支援村で活動している山室さん(右下)

いので、よその国のものに行って、ルールに則り住民と話し合いながら注意深くこれらを遂行していく訳だ。時間のかかる地味な活動で、私は頭が下がる思いがした。

外国企業が来て、いつの間にか村人たちの生活基盤である森や川がゴムなどのプランテーションに変わってしまう。あるいはサトウキビなどの契約栽培の話をもちかけられる。それで

お金をもうける村人もいれば、借金地獄に陥る人もいる。手っ取り早く森の木を切ってお金に換える人、役所に抗議にでかけて危ない目にあう人。様々な人がいて村の状況は混沌としている。

そんな中でJVCは、村民が不当に土地を失くすことがないように、安定したくらしが送れるよう、プロジェクトを進めている。村の地図や基礎データ作りの他に、現地スタッフや村人に法律に関する研修を行ったり、農業生産性と生活の質の向上を目指して農業技術の指導を進めている。

- プロジェクト名: サワンナケート県農村部住民による自然資源の管理・利用支援プロジェクト
- 期 間: 2018年3月～2021年3月
- 対象地域: サワンナケート県ピン郡5村、アサバントン郡5村 計1,412世帯

(会報作成チーム 斎藤和子)

※このページの写真はJVC提供



CWCCからの報告

地球の木のサポートに感謝

地球の木が2014年から支援しているCWCC(カンボジア女性緊急支援センター)は、1997年からレイプやDVなどの被害を受けた女性のためのシェルターを運営し、カウンセリングや法律相談、自立への支援を行っています。特に大切にしているのは、こういう状況が起こらないようカンボジアの社会を変えること。法律的には男女平等でありながら、女性の権利が守られていません。そのために男性へのジェンダー教育、犯罪抑止教育、女性への権利教育、観光客への売買春禁止のキャンペーン活動なども行っています。

地球の木は、プノンペンのシェルターで、被害者がシェルターを出て生活を始めるための資金や医療支援、職業訓練など、出た後の生活支援をサポートしています。CWCCから昨年度の活動(2018年9月~2019年8月)について、以下のような報告が届きました。数字をお知らせすることで、実際の様子がより伝わるのではないかと思います。

上記1年間で46名の被害者とその家族*を保護。

そのうち31名が新たな被害者。内DV被害15人、レイプ被害22人(2歳~20歳)、人身売買9人。これらの被害者にカウンセリングを行い自ら意思決定することへの自信と自尊心を持つことを指導しています。グループや個別のカウンセリングで、被害者は精神的なストレスや羞恥心から解放されます。また子どもたちは、学校に行かせ(15人)、幼児はデイケアに参加させています。

心のケアと並行し、生きてゆくための能力の養成も大切な役割です。健康管理や衛生指導、また識字に関しては教師がいないため、読み書きの能力を持つ被害者やその家族による識字クラスを提供し、様々な情報や学習の機会にアクセスできるように場を提供しています。経済的に自立可能な年齢の人たちには職業技能訓練を実施し、自立を目指します。縫製やパンなどの食品加工やお土産品作りなど市場性のあるスキルの提供を行い41人が参加しました。

*家族とは子どもの場合はその親、また小さな子どもがいる母親の場合、その子どももシェルターで生活します。

CWCCでは自立後も、カウンセラーが、時々様子を見に訪問し、ケアをしています。その成果でもあるのか、戻ってくる人はほとんどいないということです。また直面している課題としては、大変重いことですが、幼い被害者は虐待などのトラウマからの精神的な立ち直りに、とても時間がかかるということです。地球の木からの支援金(30万円)は決して多額ではありませんが、皆様から頂いた会費や寄付金がカンボジアの未来を作る若い女性や子どもたちの何名かの立ち直る力になっています。(カンボジアチーム 成瀬悦子)



セラピーとしてビーズ細工をする子どもたち

現地の助っ人ディナさん

2019年9月26日。東京の気温は23度以上ありましたが、「日本はちょっと寒いですねー！」と言いながら、マフラーを巻いて現れた、ディナさん。地球の木をカンボジアから力強く支えてくれている彼が来日しました。

カンボジアの大学で日本語を学んだので、ディナさんとの会話は日本語です。また、ご両親がシルクに携わっているお仕事をされているため、ディナさんもシルクに精通しています。そのため、地球の木の現地サポーターとして、頼りになる存在です。

カンボジアでのシルクやクラフトショップの傾向や流行も教えてくれます。物価や人件費が上昇しているカンボジア。家賃も例外ではなく、大通りに店を構えていたクラフトショップが、家賃の支払いが大変になり、観光地から離れた場所に移転しているケースが増えていて、という話が印象的でした。

私たちの数日間の現地滞在では分らないこと、感じ取れないことをいつも教えてくれるので、私たちはディナさんを通じてカンボジアの今を見ることができていると思っています。いつもありがとう、これからもよろしくね、ディナ君！ (カンボジアチーム 竹内千佳)



プノンベン大学卒の秀才で、日本語も話せます

秋のイベントに参加しました



9/28 かながわ市民活動フェア

かながわ県民センター（横浜駅）



40 をこえる団体や個人が参加 相互の交流を図るのも目的



11/3 かながわ湊フェスタ 2019

神奈川公会堂（東神奈川駅）



見る！聞く！体験する！
子どもたちにはラオスのシンの試着も

11/10 かまくら国際交流フェスタ 2019

長谷 高德院



鎌倉の大仏を背景にした国際色豊かなイベントでした

コア会が始まりました

今年度は、第6次3カ年計画の初年度であり、また2021年には設立30年になることもふまえ、「地球の木のこれから」を検討するため、コア会を7月から毎月1回開いています。

地球の木の活動は、海外支援の3チーム、講座開催等の啓発活動を行う国内活動チーム、会報作成やクラフト販売などの7チーム、およそ20数人が取り組んでいます。コア会は、各メンバーが、地球の木の課題を共有し、そして必要と思われる情報等の学習を交え、討議します。

地球の木の今の課題は、会員減少、会員および担い手の高齢化、それと30年たつ活動が成熟し、その結果、チーム活動という枠内で活動が終始し、新しい発想や冒険心が少なくなっているかなと思います。

また、私たちを取り巻く社会状況、国際情勢、経済、そして後発国の開発・支援のあり方は、30年の間に変化しており、さらに気候変動、テロ、難民問題など困難な問題も悩ましい限りで



コア=CORE(核)。コア会とは地球の木の運営・活動に関わる理事会、各チーム、事務局の全メンバーが参加して行うミーティングです。

す。日本で暮らす私たちが、途上国の人たちの支援をし、私たちの便利な生活は世界の誰かの犠牲の上になりたっていることを、ネパール、ラオス、カンボジアを通じて知り、そのことを基に運動として発信し続けなければなりません。

地球の木のこれらを創ろうというとき、まずは立ち戻る設立趣意書には、①自然との共存 ②人権尊重 ③自立した新しい生き方の創造等が書かれています。コア会では、これを実現していくために模索しています。

第6次3カ年計画の目標には「笑顔で未来をつくる」と書かれています。「未来を考え、作ることでできる動物は人間だけだ。それは命が限りあるものだと知っているから」と聞いたことがあります。地球が、世界が、深刻な危機に落ちている今こそ、自発的で市民主体の地球の木の国際協力が大切だと考えます。

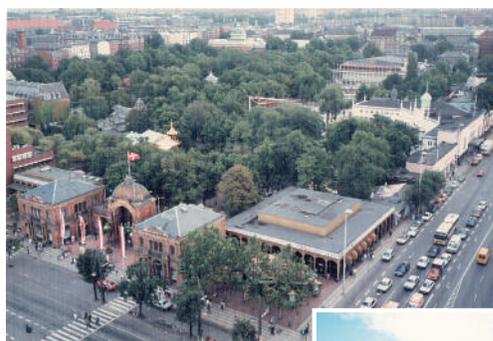
皆さまも観客席から飛びだして、一緒に新しい地球の木をつくる活動に参加しませんか。(副理事長 大嶋朝香)

共に生きる

多文化共生の原風景～デンマーク・チボリ公園で～

私にとっての、『多文化共生』の原風景は、デンマークの首都コペンハーゲンのチボリ公園です。世界最古の遊園地といわれるだけあって、30年程前のチボリ公園には、木製の、ちょっと危なげなジェットコースターが、悲鳴を上げる人々を乗せてガタゴトと回転していました。その前の広場で、大勢の観光客の中を自由に走り回る、車椅子の若者。人目を気にすることなく、短い北欧の夏を心から楽しんでいるようでした。そして、周りにいる人々は、障がいを持った彼を別段気遣うでもなく、非難の目を向けるでもなく、若者が空気のように溶け込んでいる光景が、一枚の絵画のように今も脳裏に焼き付いています。その頃の日本は、たとえば、脳性まひの姪の車椅子を押して散歩していると、好奇の目で見られる、そんな時代でした。

チボリ公園のレストランに行くと、私はまた、見慣れない風



1987年のチボリ公園



景に出くわしました。クリクリの髪の毛の、2歳くらいの愛くるしい黒人の男の子に、ラテン系の若い女性がご飯を食べさせています。その時は「きっと、ベビーシッターだわ」と思いました。コペンハーゲンでの一週間が終わり、帰りの飛行機に乗った時、今度は、背の高い、金髪碧眼の夫婦が、アジア系の、よちよち歩きの男の子を抱っこしているではありませんか。後ろからお父さんそっくりの、5、6歳の女の子が通路を歩いてきます。今でこそ、「ブラッドピットが大勢の養子をとっている」なんてニュースを聞きますが、コペンハーゲンでの体験は、私の中に眠っていた偏見と決めつけを打ち壊しました。

ノルウェーの小学校の教科書には、低学年から「肌の色が違って人間は皆同じ。障がいも個性」という内容が載っているそうです。30年前に垣間見た風景は、人権を尊重する北欧の教育の一端だったのですね。(会報作成チーム 乳井京子)



入口は海外支援とは遠かった

今は昔の感であるが、10数年前韓流ドラマが日本のオバサンを熱狂させた時、私も熱心なファンとなり韓国語を習い始めた。その時の韓国語の講師が「地球の木」の初期からの会員Iさんだった。

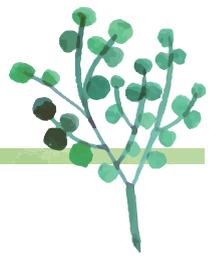
Iさんは、「地球の木」が2005年に韓国のNGO「地球村分かち合い運動」の女性たちを招いた時、その中の2人が日本の家庭を見たいというので、Iさんがホームパーティーを開き、私も参加した。韓国のオバサンたちのエネルギーに圧倒され、これが「地球の木」との出会いになった

海外支援とは結び付かないまま会員になった私はイベントでチヂミ販売の手伝いをした。住んでいる川崎ランチが、ラオスを支援するラオsteamに関連していたので、ならばラオスを知ろうとするも、ラオスの情報は少ない。そんな時に夫の「一度ラオスに行った方がいい！」との一言。そこでラオス・スタディツアーに参加した。

私のラオスのイメージは、亜熱帯、一年中半袖Tシャツ、スクールぐらいだったが、着いた2月の首都ビエンチャンは、乾季の時期でからりと晴れて寒かった。ここから私の何これ？ が始まり、もっとラオスを知りたいと思うようになり今に続いている。

(川崎市宮前区 木谷博子)

事務局から



下田寛典(ともりのり)さん ありがとう

若いながらも冷静沈着に事務局のスタッフとして、事務作業、年4回発行の会報誌作成のメンバーとして活動。着任して間もなく発生したネパール大地震の現地調査に赴くなど、4年にわたって事務局を支えてくれた頼もしい存在でした。現在は海外を視野に入れたベンチャー企業を立ち上げられ、活躍が期待されます。これまでどうもありがとうございました。

小俣匡彦(ただひこ)さん よろしく

事務局の新しいスタッフとして、8月の着任早々から精力的に動き回る小俣さん。テレビマンとして数々の番組の演出を手がけ、その後はタイに住んで文化を学び、伝統的な技術を日本に紹介するなど、国際交流活動に取り組んだ幅広い経歴を持つ。

「一人でも多くの人を笑顔に」をモットーに仕事をしてこられたという小俣さん。地球の木の新しい1ページを開くために汗をかきますとのこと。

どうぞよろしくお願いします。



活動日誌

9月

- 2日 理事会
- 22日 カンボジア現地協力者ディナ氏来日
- 22、23日 霧が丘デポー展示販売
- 25日 第2回コア会(活動意見交換会)
- 28、29日 かながわ市民活動フェア

10月

- 1日 2020年カレンダー予約販売開始
- 4日 遺贈寄付相談・市民ネットスタート
- 12日 よこはま国際フェスタ2019 (台風19号により中止)
- 13日 なか区民活動祭り (台風19号により中止)
- 21日 理事会
- 25日 第3回コア会(勉強会)
- 26日 エッココ講座(あしがら commons)
- 31日 市が尾デポー展示販売
- 11月1日 //

11月

- 3日 かながわ湊フェスタ2019
- 7日 相武台デポー展示販売
- 10日 かまくら国際交流フェスティバル2019
- 16日 オルタ館フェスタ
- 18日 理事会
- 24日 ひらつか市民活動センターまつり

第二弾 通信販売のお知らせ



前回ご好評をいただいた通信販売の第二弾です。1年間よく頑張った自分へのご褒美に、またお友達やご家族へのプレゼントにいかがでしょうか。

クリスマスプレゼントとしてご希望の方は12月10日までにお申し込みください。12月20日までにお届けいたします。
詳しくは同封のチラシをご覧ください。

「地球の木」カレンダー2020 好評発売中



「トゥム・テ・バロバロ～幸せの音が響く島～」



- ・写真家：竹沢うるま氏
- ・サイズ
壁掛け：32cm×38.5cm
(使用時 60cm×38.5cm)
卓上：16cm×17.8cm×7.5cm
- ・制作元：
日本国際ボランティアセンター (JVC)
- ・価格
壁掛け：1,600円(税込)
卓上：1,300円(税込)

イ ベ ント 情 報

東日本大震災復興支援まつり2019 in みなとみらい

2019年12月7日(土)10:00～14:30 雨天決行
場所：みなとみらい臨港パーク
東日本大震災から8年が経ちました。3.11を風化させないためにと毎年開催されている復興支援まつりです。



よこはま国際フォーラム2020

2020年2月15日(土)、16日(日)
11:00～17:10(予定)

場所：JICA横浜(みなとみらい)
毎年恒例となっている、国際協力・多文化共生に関心をもつ方々にお勧めのイベントです。



Yokohama C plat

デポー展示販売 あなたの街に地球の木が伺います。
12月5日…つなしま 12、13日…つつじが丘

10月1日

「遺贈寄付相談・市民ネット」が活動開始



「遺贈寄付相談・市民ネット」は、地球の木をはじめ、8つの団体が参加した、あなたの思いと寄付

プログラムをつなぐプラットフォームです。

現役から離れ、あるいは終活に向き合おうとするとき、その思いを社会貢献活動に託したい…、そんな思いを実現させる相談窓口をつくりました。

詳しくは

遺贈寄付相談・市民ネット

<https://www.izo-citizens.net/>

または電話 045-620-9044 にお問い合わせください。

2019 年末募金

今年もよろしくお願ひします

皆さまの日ごろのご協力に、心より感謝申し上げます。

今年も残りあとわずかになりました。ネパール、カンボジア、ラオスの人たちへの自立支援と、水害被害にあった地域の復興のため、皆様からの心温まる募金をお願いいたします。詳細は同封のチラシをご覧ください。

寄付金領収書について

地球の木へのご寄付は、所得税の控除対象になります。

寄付金控除を受けるためには、当会が発行する「寄附金受領証明書」(領収書)を添えて確定申告することが必要です。2019年の領収書は確定申告に間に合うよう、2020年1月下旬にお送りいたします。なお、振込用紙などで「領収書不要」とお申し出いただいた方へは送付されませんので、必要となった際にはご連絡ください。

また、地球の木ではサポート会員の会費も寄付金控除の対象になります。サポート会員の会費はご連絡いただいた方のみ領収書をお送りしておりますので、必要な方で、ご連絡いただいていない方は事務局までご連絡ください。



特定非営利活動法人
地球の木



さまざまな事情により紙面の変更を余儀なくされることがあります。今号は度重なる台風のため、記事を予定していた二つの行事がキャンセルになりました。まさに災害列島日本！しかし災害は日本のみならず、支援地のネパール、ラオスでも。今、私たちにできることは？(M.H.)